



議会だより

元気なまちづくり!
土庄町

とのしよ

No.49

contents

- 町議会の動き(6月定例会) … 2~3P
- 常任委員会の活動 …… 4~5P
- 特別委員会の活動 …… 6~7P
- 一般質問 …… 8~9P
- 議会日誌・編集後記 …… 10P



平成24年
8月5日発行 / 第49号



迷路のまち (案内地蔵作成)

土庄高校定時制の生徒と地域の人達の作品

町議会の動き

6月定例会が6月20日から22日までの3日間の会期で開催され、平成24年度補正予算2件、条例関係7件、人事案件1件、その他2件、いずれも原案のとおり可決、同意しました。

平成24年度一般会計補正予算 7,335万6千円増額⇒67億5,535万6千円に

《補正予算 歳出の主な内訳》

- コミュニティ助成事業 18,500千円
- 福祉サービス事業特別会計繰出金 16,908千円
- 病児・病後児保育事業 420千円
(第3子以降かつ3歳未満児利用料助成金)
- 公立病院再編整備事業(小豆医療組合負担金) 59,047千円
- 公民館維持管理費 1,134千円
(旧図書館屋上・中央公民館ボイラー修繕)
- 体育施設維持管理費(高見山防球ネットほか) 1,604千円

◆ 人 事 案 件 ◆

土庄町固定資産評価審査委員会委員の選任 ⇒ (同意)
住 所 土庄町甲267番地27
氏 名 堀 川 隆 氏

◆土庄町辺地に係る総合整備計画の策定及び変更について◆

ブロードバンド整備促進事業
小江いこいの家建設事業

区 分	議 案 の 内 容	結 果
予算関係	平成24年度土庄町一般会計補正予算(第1号)	賛成多数
	平成24年度土庄町福祉サービス事業特別会計補正予算(第1号)	全会一致
条例関係	住民基本台帳法の一部改正及び外国人登録法の廃止に伴う関係条例の整理に関する条例	全会一致
	土庄町税条例の一部を改正する条例	全会一致
	土庄町国民健康保険税条例の一部を改正する条例	全会一致
	土庄町公民館設置条例の一部を改正する条例	全会一致
	土庄町公民館使用料条例の一部を改正する条例	全会一致
	土庄町重度心身障害者等医療費支給に関する条例の一部を改正する条例	全会一致
	土庄町営住宅管理条例の一部を改正する条例	全会一致
その他	土庄町辺地に係る総合整備計画の策定及び変更について	全会一致
	小豆医療組合の設立について	賛成多数
人事案件	土庄町固定資産評価審査委員会委員の選任について	同 意

条例の一部改正

外国人登録法が廃止



土庄町行政組織条例、土庄町印鑑条例や土庄町手数料条例の字句などの訂正

地方税法等の一部改正



- ① 公的年金だけの方で寡婦控除を受ける場合、申告書が必要
- ② 減免対象の法人について公益法人制度改革による語句の改正
- ③ 固定資産税の算出は負担調整制度の継続
- ④ 図書館博物館など設置する一般財団、社団法人に係る固定資産税の非課税措置の追加
- ⑤ 東日本大震災に係る住宅などの雑損控除や長期譲渡所得に係る個人町民税の特例措置を設ける

土庄町国民健康保険条例の一部改正



東日本大震災の被災者等に係る国税関係法律の

臨時特例に関する法律の一部を改正する法律の施行に伴い、被災居住用財産の敷地に係る譲渡期限の3年を7年に延長する

土庄町公民館設置条例と使用料条例



大部公民館の新設に伴い大部公民館の住所変更と使用料の変更

土庄町重度心身障害者等医療費支給に関する条例の一部を改正する条例



香川県重度心身障害者等医療費支給事業で、平成24年8月1日から補助対象経費が変更される(一部負担金の軽減)

土庄町営住宅管理条例



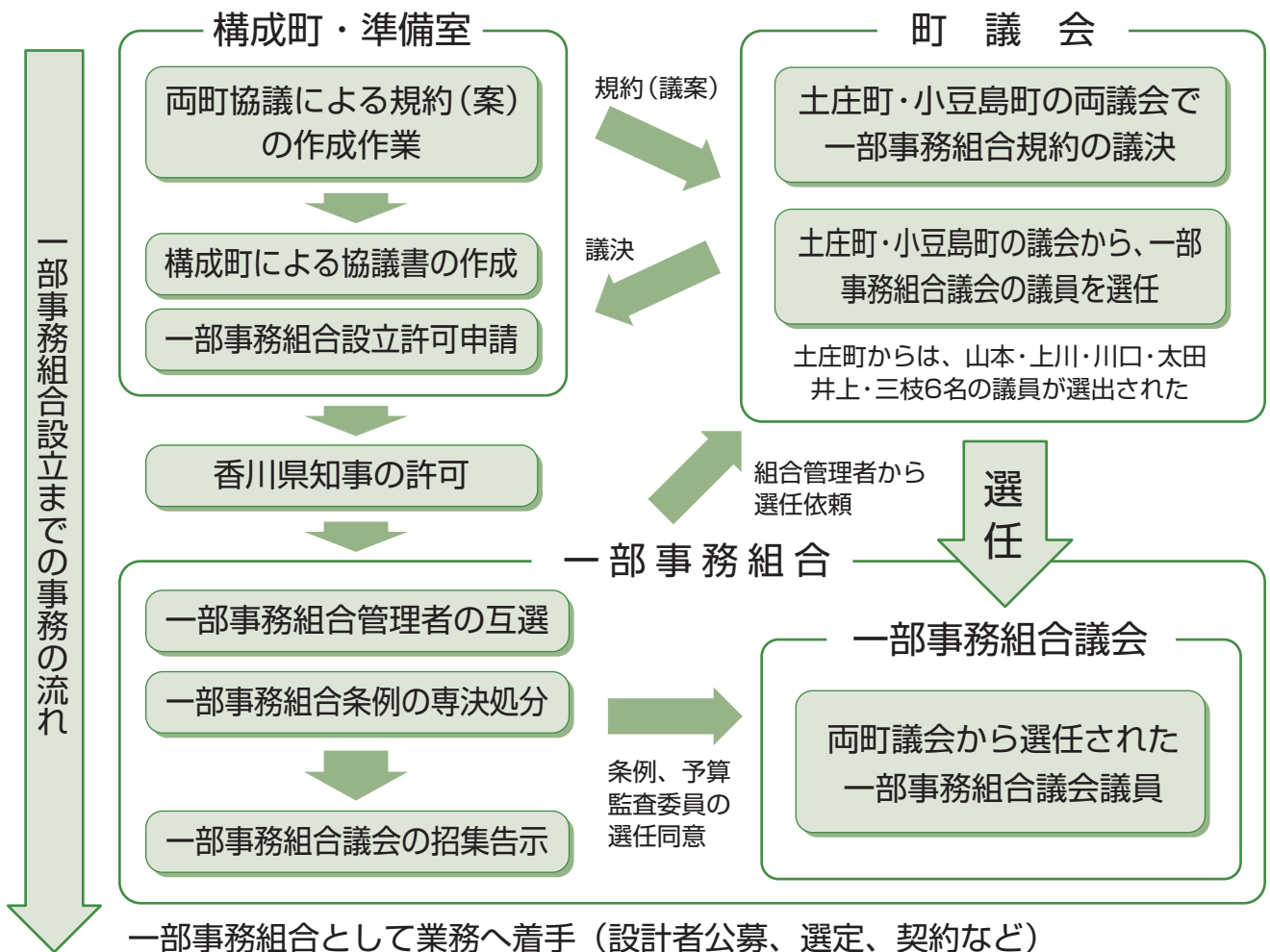
従来の入居資格を維持するため経過措置を設ける

◆小豆医療組合の設立について◆

(一部事務組合)

土庄町と小豆島町における小豆医療圏の公立病院再編に関する事務を共同処理するため

一部事務組合設立までの概要



総務建設

(5月18日閉会中)

「土庄町中期財政計画」

わが町は将来的に何をしなければならぬか。

各課長からの意見

常に財政状況を把握したうえで、予算化、行財政計画や重要施策に基づいた事業の取り組み、職員意識改革、費用対効果による事業優先度の精査、税・水道使用料など

徴収率の向上努力と滞納額の減少対策、町民目線での行財政の簡素化と効率化、事業の選択と集中、自主財源確保のための料金見直しなどできる限りの努力を進めていく。

一方、介護・福祉・医療の制度に基づく予算は高齢化に伴い増加傾向にあり、町の裁量で削減が困難な事情もある。

委員から

町の財政活動が非常に厳しくなってきたという危機感を認識し、土庄町が置かれている立場はどうなのか、その分析ができなければ、今後何もできなくなる。職員も議員も一緒に共に取り組んでいきたい。

(6月4日閉会中)

「小豆地区消防本部新消防庁舎建設基本構想及び基本計画」の提示があった。

総務課

◆超高速ブロードバンド(光ファイバー回線)整備促進事業

公募の結果、NTT西日本(株)香川支店に補助金の交付が決定した。民設民営で、土庄局の小豊島、沖ノ島を除いた5、2、3、5世帯に対し、平成25年3月29日までの工期で整備する。

◆防災行政無線デジタル化事業

10月30日までの工期で、既設装置のメーカーと4千8百30万円で契約を締結した。

【質疑応答】

《問》家庭への引き込みについては。

《答》引き込みは個人の負担となるが、期間限定で無料となる予定。詳細

はNTTより案内がある。

商工観光課

「瀬戸内国際芸術祭 2013」について

開催期間

春、夏、秋に分散開催の形で、春は3月20日から4月21日まで、夏は7月20日から9月1日まで、秋は10月5日から11月4日までで、合わせて108日間を通しての開催になる。

開催場所

小豆島、豊島をはじめ7つの島と高松港周辺、宇野港周辺に加え、第2回は香川県の中西讃の島々(しゃみ島、本島、高見島、栗島、伊吹島)が加わる。小豆島では前回から引き続き肥土山地区・中山地区などで作品の展開、また新規プロジェクトとして、土庄港のパブリックアートなどを予定している。

また、豊島は前回からの継続作品として、豊島美術館、島キッチンをは

じめ、10作品が残されているが、新規プロジェクトとして、空き家を活かした作品設置と東洋オリブ豊島農園付近で福武美術館財団が作品の展開を検討している。

【質疑応答】

《問》新たな作品展示場所として「高見山公園」「海から来島できる大坂城残石記念公園のみなどオアシス」「迷路のまち」「前島の海岸線」などを活用してはどうか。

《答》実行委員会へ要望しつつ。

委員会報告

常任委員会の活動状況を報告します

総務建設常任委員会 5月18日・6月4日に開催
教育民生常任委員会 4月20日・6月6日に開催



平成16年 高潮災害時

← (土庄本町バス停付近)



現在



「島キッチン」安部 良 撮影：中村脩

教育民生

(4月20日閉会中)

福祉課

土庄町地域福祉計画(第2期)

高齢者、障害者、子育て支援といった様々な生活課題に対応するためには、住民を含めた関係者が問題意識を共有し、解決のために協働していくことが重要である。それにより地域の人々とのつながりや地域活性化が期待されることから、この計画は、地域社会再生の軸となりうる基本理念や今後の取り組みを示す役割を担うものとなっている。計画の期間は、平成24年度から概ね5か年。

委員から わが町は高齢化社会が進んでいる。今後は計画の中で、限界集落についても考えていかなければならない。

土庄町障害者計画(第2期)および土庄町障害福祉計画(第3期)

・土庄町障害者計画は、計画期間満了に伴い、平成24年度からの「第2期障害者計画」を策定した。この計画は、障害者福祉全般に係る基本理念や方針、目標を定める計画で、計画の期間は6年間。障害福祉計画も計画期間満了に伴い、平成24年度からの「第3期障害福祉計画」を策定した。

この計画は、市町に策定が義務づけられたもので、国の基本指針に基づき、福祉サービス、相談支援や地域生活支援事業の提供体制の確保に関する計画を定め、年度ごとにサービスの種類ごとの必要量の見込み、その確保のための方策を定めることになっている。計画の期間は、3年間。

(6月6日閉会中)

住民環境課

し尿処理施設事業の進捗状況

小江の最終処分場の期間が伸びた関係もあり、し尿処理施設に絞って交渉してきた。4月の小部臨時総会で、し尿処理施設は合意が得られ、基本合意書を交わしている。

灘山自治会は、し尿処理施設は概ね反対はないが、地域振興の内容で見直しはまだ立っていない状況である。し尿処理施設の期限が4年を切っている中で、環境アセスメントなど、当初予算で計上しているが測量や地質調査を早期に着手していかないと間に合わないぎりぎりのところに来ている。

【質疑応答】

《問》し尿の方で小部とは合意に至ったという事だが、条件面でも合意は得られているのか。 《答》し尿処理施設15年

間、地域振興対策事業として公共事業費1億3千万円で基本合意と言う事である。

《問》地域振興対策事業の内容は。

《答》内容的なものは今後、別途覚書等を交わり、年度ごとに相談する。

教育総務課

学校給食の安全性について

5月29日淵崎小学校で配膳中の給食に釘(約2.5cm)が入っているのを発見した。原因については、現在調査中で、今後は、徹底して再発防止に努めたいと報告があった。

土庄中央病院

電子カルテ導入の進捗状況について

電子カルテ導入は、平成22年度から院内において電子カルテ導入検討委員会を立ち上げ、協議を重ねてきた。

昨年10月に導入に向けて本格的に動きだし、病院の現状分析と電子カルテ導入に向けての詳細計画の立案を業者委託し、翌1月26日選定業者3社による公募型プロポーザル(プレゼンテーション)を行い、3月15日に導入に向けた仮契約を結んで

いる。

【質疑応答】

《問》病院の委員会には専門の人は入っているのか。

《答》業者選定にあたっては、実績のあるコンサル会社にシステム導入の支援業務を委託し、審査をしている。

《問》計画中の電子カルテは新病院では使えるのか。

《答》新病院の導入業者が同じであれば使えるが、他の業者になった場合、システム変換経費が発生すると考えられる。

《問》機器が違ったら互換性はないのか。

《答》現在のところシステム化されていないが、今後地域医療の連携を図るため、県内に医療情報交換セクションを創設する計画がある。

水道事業調査特別委員会

(4月19日・6月18日閉会中)

◆4月19日

現地視察

肥土山浄水場更新設計の一部再検討のため、小豆島町の内海浄水場へ行き、施設の概要の説明を受けた後、稼働している水道施設を見学、その後富丘コンクリート(株)で、排水処理施設やフィルタープレス式脱水機の稼働状況を視察した。



◆6月18日

肥土山浄水場更新工事の全体計画

・更新工事

実施設計が完了している施設箇所と将来建設する可能性がある施設の再確認を行い、特に「上向流式生物活性炭処理施設」「自然式天日乾燥床4池」「PC造配水池2,000㎡ 1基」については、将来において想定されるケースを考慮した施設であることなど詳細に説明を受けた。

・進入道路拡幅工事

拡幅部分が河川区域の範囲となるので、小豆総合事務所と協議中である。

汚泥処理方法の検討

現地視察を踏まえて委員会からの提案に対し、「高効率多段式天日乾燥床」の処理能力に相当するフィルタープレス式機械脱水機の取扱業者と納入実績、概算見積金額などを徴取した資料の説明を受けた。

見積依頼業者から現状が具体的に把握できないため、実際に業者が水を持ち帰り実験したり、現地で機械を仮設して実験

しないと保証できないなどの意見があることから、今後は試験的な試みが必要になってくることであった。

【質疑応答】

《問》施設は地震など災害発生時に大丈夫か。

《答》耐震設計をした施設を計画している。

《問》以前落石があった場所に施設が配置されているのではないか。

《答》重要ではない施設を配置している。

《問》汚泥処理施設の選定に必要な実験をする際、機械の貸出はあるのか。

《答》機械の貸出は、使用後に買取りとなる可能性があるため、町からメーカーに汚泥を送り、そのデータを取ることで、業者選定などを再度検討する。

病院再編調査特別委員会

(5月31日閉会中)

小豆医療圏公立病院建設準備室から、病院統合についての基本構想の素案と一部事務組合の概要について説明があった。

基本構想の素案

地域や医療の現状分析と将来予測や小豆新病院(仮称)の整備方針について報告があった。

一部事務組合の概要

- ①新病院建設までの経過や予定について
- ②一部事務組合設立までの概要
- ③規約で定める事項
 - ・組合の名称
 - ・組織する地方公共団体
 - ・共同処理する事務
 - ・事務所の位置
 - ・議会の組織及び議員の選挙の方法
 - ・執行機関の組織と選任の方法
- ④組合の経費の負担割合
- ⑤必要な条例(案)

⑥必要な規則・規程について説明があった。

6月下旬に、この組合議会を開催予定である。

土庄中央病院の活用

土庄町は無床の診療所が残る。この診療所と土庄町保健福祉総合施設やすざびプラザとの連携の中で、保健と医療と福祉が連携した地域包括ケア体制を作ろうとプロジェクトチームを発足した。たたき台を24年度内には発表したい。

【質疑応答】

《問》高齢化により通院の足が問題だと思いが。

《答(病院準備室)》両町と相談し、どう働きかけていくか検討したい。

《問》新病院の場所は、池田中学校であるが地元、保護者等との話はどうしているのか。

《答(病院準備室)》地元への説明は、小豆島町の教育委員会を中心に実施していると伺っている。統合に向けて町の方で

話を進めていると認識している。

土庄中央病院の医師・看護師との懇談会

【医師・看護師の意見】

・10年先20年先の島の医療を考えると、統合するしかない。両病院とも経営的にはうまくいっていない。
 ・非常に過酷な労働環境の中、島の医療を守りたいという気持ちでボランティア精神で仕事をしている。
 ・日曜当番医制度もあるが、当番医の意味をなしていない。町として医師会に協力の申し入れを。
 ・小豆島出身の看護師・医師が島に帰って働ける施策を。
 ・夜中の患者さんの搬送方法は。(海上交通)

・町として病院ができた後、バックアップの方向性は。
 ・小豆島の医療レベルをどの程度のものにしていくのか。

新小学校調査特別委員会

(4月16日閉会中)

基本設計が完了し、概要説明を受けた。

【質疑応答】

《問》校舎の耐震強度はどのくらいか。

《答》新耐震基準により、震度6強でも持ちこたえられる。

《問》校舎の耐用年数は。

《答》70年から80年。

《問》体育館と校舎を繋ぐ大屋根は、設置が決まったのか。

《答》ふれあい広場として有効に使うのでできれば屋根があるほうがよい。総事業費を考えて、実施設計の中で検討したい。

《問》車椅子の児童が使うエレベーターは。

《答》給食用の配膳エレベーターと兼用である。

《問》プールは中学校も

使うのか。

《答》このプールを小中学校が兼用で使う。時間割を調整して使えば両方の使用は可能と考えている。

津波想定に対する対応

【質疑応答】

《問》小学校の低学年は、山へ避難するのか。

《答》津波によっては校舎の2階、3階に居る方が安全な場合もある。その時の状況判断になると思う。

《問》津波は高さだけでなく何回も打ち寄せてくるので護岸がそれに耐えるのか。

《答》護岸の高さが4.8m、その裏側に土をもっている。後ろ側を土の山で押さえているので、耐えると思う。

観光振興特別委員会

(5月25日閉会中)

観光地の掘り起こし

新たな土庄町観光振興指針を作成中である。

基本理念は、『小豆島の伝統あるおもてなし、お世話したいの心を原点にした癒しと和みの世界』をテーマとした観光の創造と発信と、とらえている。

《問》本町自身の活気・発展があつてこそ、島民自身の生活の向上や、豊かさに繋がっていく。

それには本町の基幹産業である観光関連産業の発展が不可欠であると考えている。

観光振興の手段として、①テーマ型観光、②参加体験型観光、③グルメ観光という3部門に分けて、豊かな島づくり、豊かな町づくりを目指していく。

小豆島エンジェルプロジェクトのもと、さまざまな企画・事業を推進していく中で、各地との連携、定期的なプレス発表

とともに宣伝活動を行い、観光誘致を中心とした発信を積極的に行っていく。

産直市場について

地産地消のために土庄町に産直はどうかという意見があつた。

国の補助金を利用し、産直の事業を検討していきたいと考えている。

補助については、地域連携販売強化施設があり、それには3年間の活性化計画を作成しなければならぬ。また施設ができ、補助金をもらう上では条件をクリアしていく必要がある。国と町の補助金で、農協にお願いするというのが進めたい。

《問》第一産業を衰退させることはできない。また、お年寄りの生きがいづくりにも繋がりたい。

委員から
・観光客に対してどのようなものができるのか。産直市場へ訪れて「小豆島ではこういう野菜が取

れて、このホテルで使われている。」というような売り込みの仕方などを考えなければならぬ。

・一般の観光客から「そのめんと魚を食べさせてくれるところはないですか。」と言われたが紹介するところがなかなかない。産直あたりに取り入れて、町の人も観光客も気軽に楽しめればいいのではないか。

フェリー問題について

小豆島への航路は、地域活性化型の航路と通勤・通学・生活物資の輸送などを支えている生活航路の2種類となっている。国は生活航路について免許制である程度の規制を設けていたが、今は免許制から認可制に改められ、運賃や運航に関する規制も緩やかになってきた。ただ生活航路は、サービス基準が設けられていて、1日の運航回数や輸送能力など一定の基準を満たせば、新たな業者の参入を認めるという方法をとっている。今後

は航路と島内のバスとのアクセスを考え観光客を呼び起こしたい。

委員から

豊島航路はフェリーを快速船にということとで現在条件を整えている最中である。宇野・岡山から豊島にきて、レンタサイクルなどを利用して島内一周することも考えられる。

・フェリー運賃を下げた外貨を稼ぐしかない。それには公設民営化しかないのではないか。

・油高騰もあり相当高くなっている。小豆島には行きたいがフェリー料金を見たら、行けないといわれる。料金も高いし、魅力もあまりないのかもしれない。

その他

トワイアスロンの復活。高見山を文化的なものとしてスポーツという2面制で売り出しているのか。などの意見があつた。



濱中幸三 議員

職員の郵便配達

濱中 職員が勤務時間外に行っている郵便配達は、二つの問題点がある。一つは、時間外賃金を支給していただくとすれば、労働基準法に違反しているのではないかと。二つ目は、時間外に郵便配達をすることが、職員の働く意欲を減衰させるのではないかとということである。

今、私たちが一番困っているのは、過疎高齢化に伴う、医療、交通、学校、町の活力などの問題であり、私は、町職員が地域で行っている村里づくりの活動に多くの期待を寄せている。この活動は町の活力の源となると思っているが。

総務課長 職員による配

布物の配達は、行財政改革の推進と地域とのコミュニケーションを図るために、毎週2回、1時間程度業務命令により行っている。手当等の対応は代休扱いとしている。一人暮らしの高齢者の安否確認も可能で、地域とのつながりも築けると考えている。23年度は、約350万円の経費の節約となっている。

村里づくりは、地域活性化支援事業として、旧小学校単位での住民の方々と職員の取り組みで、積極的な活動を期待している。なお事業計画がありましたら、地区のチーフにご相談ください。

震災がれき

濱中 土庄町には国立公園の特別地域、普通地域が多く存在する。私たちは、この素晴らしい景観を誇りにしなければならぬ。また、わが町は、この素晴らしい景観をもとに、観光産業、食品産業などによって成り立っていると思う。

沖縄県石垣市の沖にあ

6月定例会 一般質問事項

る人口340人の竹富島は、島の人定めた竹富島憲章がある。その基本理念は、「売らない」「汚さない」「乱さない」「壊さない」「生かす」である。わが町も、町の生き方の基本について、憲章みたいなものを考えたならば本がぶれないと思うがどうか。

町長 次の二つの理由から震災がれきの受け入れを断念し、記者発表した。

- ① 土庄町の処理施設予定地が、国立公園普通地域であり、自然公園法に抵触する。
- ② 国のマスタープランによる処理期限があることから新規施設での受け入れは難しい。

今後もし引き続き、受け入れ以外で被災地支援を行うので、ご協力よろしくお願ひしたい。

竹富島の件、わが町は現在景観計画を策定していて、これに基づいたまちづくりに取り組んでいる。そういう点も考慮しながらこの景観づくりの策定を進めたい。



井上正清 議員

子育て支援について

井上 ① 同じ一人親として父子家庭の補助金は② 第3子への保育料無料化の年齢引き上げを③ 放課後子ども教室の充実した受け入れ体制を④ ファミリーサポート事業について

福祉課長 ① ひとり親家庭を対象とする様々な助成制度は、父子家庭の方も利用できる制度が増加している。ただし、所得制限のある制度は、支給対象とならない場合がある。

本町では、現行制度の周知や活用を図るとともに、県との連携をとりながら、父子家庭に対する支援、ニーズの把握に努めたい。

教育総務課長 ② 県内の状況も踏まえ、4歳児、5歳児までの無料化についても検討が必要な時期に来ていると考えている。

財政的な負担も考慮した上で、関係機関と十分な協議、検討を行いたい。

生涯学習課長 ③ 子ども達の安全で健やかな居場所作りを推進するため土庄、洲崎、四海の3小学校区に4教室の放課後子ども教室を保護者の皆様にとっては極めて軽い負担で運営をしている。

地域にある既存の施設を利用し、地域の方々がボランティアの参画を得て、勉強やスポーツ、地域の人々との交流活動を通して、子ども達を育むという理念のもとに活動している。

これまで放課後子ども教室への参加を希望する子どもたちの受け入れ制限はしていない。

人権対策課長 ④ 今後は、県内でも社会福祉協議会など民間団体が実施

している例があることから、本町も当事業への協力、支援を行いたい。

太陽光発電について

井上 今後ますます電力不足が予想される中、省エネでエコロジータな快適な生活を補助するため、わが町の取り組みは。

住民環境課長 住宅用太陽光発電補助金は、住宅の屋根等に発電システムを設置する者に対して補助をする制度で、県内の市町平均の補助金は1kwあたりで4.2万円、補助限度は平均14万円となっている。

今後、自然エネルギー利用の普及が予想されること、県下市町の補助制度実施状況を勘案する中で、町財政担当と相談しながら、検討したい。



福本耕太 議員

地域医療の再生を、住民とともに

福本 わが町が抱える医療・福祉の問題について、町はこれまで、その解決の全てを「病院の再編・統合」に委ねている。

しかし、町が「病院の統合」一本やりで進める傍ら、住民アンケートやシンポジウム（小豆・革新懇主催）、医療従事者と議会の懇談の中で浮き彫りとなったことは、地域医療の再生には①町立病院への住民の理解と合意形成②国の医療費削減路線からの転換が必要不可欠である。中でも①は今後の島の医療・福祉に「魂」を入れる作業であり、従来の各団体代表（既存の協議組織）による意見交換会だけでは限界がある。住民の誰もが参加できる開かれた議論の

場が必要である。医療シンポジウムを開き、定例化し、住民や医療関係者の声に真摯に耳を傾けながら実践する、不断の努力を続けるべきだ。

福祉課長 既存の協議組織で考えている。

住民負担依存の国保・介護運営を改めるべき

福本 地方自治体の国保・介護会計の危機は、高齢者自然増に対する国庫負担率増加分を国が削減し続けている事が原因である。それにも関わらず町は国の責任を問わず、町民の負担増に転化している。そもそも国保・介護制度は、健全な国庫負担の上に成り立つ制度だ。住民負担を増やし続けても、いずれ制度は行き詰る。今のやり方を改めて、国に責任を求め、町は一般会計から繰り入れて、住民の負担増に歯止めを掛けるべきだ。

町長 小さな町では運営

できないので、広域化を県に求めている。

福本 広域化はごまかし。住民負担は今以上に増え、制度もいずれは行き詰る。国に責任を果たさせれば、小さな町でも運営できる。

消費税増税に反対し、富裕層・大企業に応分負担をさせるよう国に求めるべき

福本 消費税増税は、わが町の住民のくらしと地域経済を破壊する。町として国に、消費税増税反対の声を上げるべきだ。

総務課長 住民サービスの安定と税収確保の側面があり、反対表明はしない。

福本 住民サービスの安定というが、社会保障は改悪ばかりだ。増税すれば財政再建どころか単年度の税収総額が減少し、財政危機が一層進む。

放課後子ども教室について

山崎 3月定例会で質問した放課後子ども教室に通う子どもたちの安全・安心のため良い方法は見つかったのか。また耐震化は。耐震診断は早急に実施できるのか。また費用はどの程度必要か。

生涯学習課長 放課後子ども教室は、希望により最大5時30分まで延長して開室をしている。

その場合、子どもたちの安全、安心のために父兄、保護者の迎えが必要だという規則の確認、また了承を得て運営をしている。四海小学校と洲崎の旧図書館の耐震化計画は、平成27年4月に、新しい小学校が開校し、また、限られた財政事情もあり、廃校となる学校の



山崎勝義 議員

有効利用という観点を視野に入れ、地域社会における居場所作りを推進しなければならぬと考えている。

教育総務課長 保育所・幼児園などの自主的な避難が難しい子育て施設を優先して耐震診断、耐震改修を実施し、小学校は、平成27年4月の新小学校の完成により安全を図りたいと考えている。

山崎 私の問いに何一つ答えていない。新小学校から放課後子ども教室の旧図書館、土庄小学校へ行く通学路、交通量の多い道を通って行かなくてはいけない。それが危ないから何か良い方法を。耐震化ができていない所へ子どもを通わせるのだしたら耐震化診断をいつするか。早急にできるかを聞いている。

教育総務課長 通学路の安全について、特に洲崎小学校区の赤穂屋交差点付近の県道土庄福田線の改良は、小豆総合事務所

に一日も早い完了をお願いしている。また、土庄小学校前の町道本町線は、新しいスクールゾーンのラインと標示を2か所設置してドライバーへの啓発に努めたい。

教育長 安全をどう図るかという事は保護者と地域の皆様方を含めてボランティアの増員により、通行の安全を図る必要があると考えている。

山崎 耐震診断を早急に実施し、総工費を9月の定例会までに示せ。

教育総務課長 土庄小学校の放課後子ども教室の場所は、耐震化はすでにできている。

また洲崎・四海小学校は耐震診断の実施ができていない。耐震診断の実施や総工費の算出には委託料が発生するので、9月までに金額を出すのは無理がある。概算なら出せる。

議 会 日 誌

【4/9～6/30】

4 月

- 16日 新小学校調査特別委員会
- 16日 議会広報特別委員会
- 19日 水道事業特別委員会
- 20日 教育民生常任委員会
- 25日～27日まで 総務建設常任委員会
(宮城県名取市ほか視察)

5 月

- 15日～17日まで 教育民生常任委員会
(岩手県陸前高田市視察)
- 18日 総務建設常任委員会
- 18日 全員協議会
- 25日 観光振興特別委員会
- 31日 病院再編調査特別委員会

6 月

- 4日 総務建設常任委員会
- 6日 教育民生常任委員会
- 13日 議会運営委員会
- 13日 全員協議会
- 18日 水道事業特別委員会
- 20日 6月定例議会（初日）
- 22日 議会運営委員会
- 22日 全員協議会
- 22日 6月定例議会（最終日）
- 26日 小豆医療組合議会臨時会
(初議会)



宮城県女川町視察

研修レポート

- わが町でも、避難基準や防災マニュアルの見直し、ルールづくりを整備していくべき。
- 学んだ教訓を今まで以上に安全・安心して暮らせるまちづくりに取り入れ、生かすことが重要である。



岩手県陸前高田市視察

議会の生の声を
聞いてみませんか！

次回定例会

9月20日頃の予定です

詳しくは議会事務局へ
TEL62-7011

編集後記

盛夏の候、皆様におかれましては、お元氣にお過ごしでしょうか。

地球温暖化に伴う異常気象のせい、各地で集中豪雨が頻発し、堤防の決壊・土砂崩れなどによる大変な被害が発生しております。南からの暖かく湿った空気が前線に流れ込み、急激に雨雲が発生するメカニズムです。気象庁も、一日前の的確な予測も難しいとさえ言われています。

梅雨明けと同時に始まります。真夏日も、毎年過酷になっております。台風シーズンも間近なこの時期、お体を
ご自愛下さい。

《正清 記》